

太陽光発電を身近に

中頓別 再生可能エネルギー講演会



太陽光発電など再生可能エネルギーについて語るニコルスさん(右)

【中頓別】太陽光パネル自家発電の普及と再生可能エネルギーに関する教育活動に取り組む札幌在住のオーストラリア人コンサルタント、ピーター・ニコルスさん(48)が14日、町内の公衆浴場「黄金湯」(渡辺由起子さん経営)で講演した。

まきで浴場の湯を沸かし、自然エネルギーに関心を抱く渡辺さんがニコルスさんを招いた。

ニコルスさんは、東日本大震災と福島原発事故を予言したと思わせる黒沢明監督の映画「夢」(1990年公開)を見て、再生可能エネルギーに注目した

という。

講演では、化石燃料が有限であり、酸性雨や大気汚染をもたらすと指摘。札幌の自宅で照明や携帯電話の充電などを太陽光発電で賄っていることや、札幌・大通公園のホワイトイルミネーションにも使われた太陽光発電装置が、雪や寒さに耐えられることを紹介した。

「自然と調和した技術で価値ある生活を創造する才能が日本人にはある」と説いた。

(佐々木学)